



狛犬はもはや芸術

「隆起した筋肉、たてがみの流れ、躍動感、こんな迫力の狛犬は初めてです」小松美羽さんは、鹿島神社(白河市東下野出島)の飛翔獅子を見て声をあげました。のみ一本で彫ったとは思えないほど複雑な曲線を描き、小松寅吉最高傑作との呼び声が高い狛犬です。(写真左)

同じ白河市の新地山羽黒神社には寅吉作(※銘はありませんが寅吉作とみて間違いはない)、松平定信の歌碑を囲う石柵があります。龍、虎、竹、松、兎、鶏など、中の歌碑が目立たないほど豪華な透かし彫りが施されており、柵の中には逆立ちをした狛犬が柱を押さえています。(写真1~3)

寅吉の師匠である小松利平。棚倉町の八槻都々古別神社には、利平の制作と推定される狛犬がいます。「阿吽でずいぶん顔が違う。阿は南国、吽は日本つばい。国際結婚かもしれない」と小松さんは、想像をかき立てます。(写真4~6)

最後は白河市に戻り、南湖神社。画家を志すも許されず家業を継いで石工となった野田平業作。「爪と牙が特徴的です。透かしの手鞠はよほどの技術がないとできないでしょう」(写真7~9)

一つ一つをじっくり観察し、醸し出されるパワーにも関心を寄せる小松美羽さん。見る人の視点でさまざまなものが見えてくる狛犬の情景を巡りました。



彫りの流れがすばらしい飛翔獅子には、様々な装飾が施されています。牡丹のしずくは、獅子の腹に入った虫を下すといわれ、中国の獅子にもよく描かれます。子犬も3匹、足下にまわりついています。

小松美羽 対談 福島県南地方 狛犬ネットワーク

狛犬パラダイスでの個性とパワー

相田道代(以下、相田):福島県南地方には、狛犬がたくさんいます。信州、今の長野県からきた小松利平さんが技術を持ち込んだのが始まりと言われていますが、美羽さんも長野出身ですね。

小松美羽(以下、小松):そうです。小松利平さんとのつながりははっきりしませんが、白河へ来るようになって、なにか不思議なご

縁を感じました。狛犬も300対もあると聞いてかなり驚きました。

相田:狛犬パラダイスと言われています。狛犬は人によって、見えるもの、感じるものが違います。いっしょに狛犬めぐりをして、細かいところに目がいき、想像を豊かにする様子は、さすが芸術家だと感じました。

小松:ここの狛犬は作家の顔が見えます。

誰かの真似ではなく、それを超えようとするオリジナル性を感じます。技術を競っていてすばらしいです。

相田:一つの大きな石から切り出して、立体に彫るとするのはすごい技術です。一瞬た



りとも気が抜けないでしょうね。

小松:「おれが強いんだ」というのがみながっています。その作家の魂、入魂した芸術品に、まわりの神聖なスピリットが呼応して、切磋琢磨しているように感じます。

相田:狛犬の爪や牙のするどさは、美羽さんの作品「四十九日」に似ていますね。

小松:悪いものを払って神聖なところへ向かうために、そういったところを大切にしています。私ももっと爪を描かなければならぬと思いました。こうした匠の芸術をもっと学校で美術を学ぶ学生さんにも見てもらいたいです。ネットでもいろんなものを見ること

はできますが、実物で見ると周辺の音や気温、空気感によって感じ方が違う。切磋琢磨しているのを肌で感じます。そういったことから感性が磨かれていくのだと思います。

相田:美羽さんの描く神獣は、最初怖さもありませんが、よく見ると可愛さがでてくるんです。優しさの中にも力強さがある。

小松:石工さんも激動の時代の中で、技術を磨き、思いを込めていたのでしょうか。今は別の意味でまたたいへんな時代だと思えます。狛犬がしっかり悪から守ろうとする姿を目にするたび、じぶんもしっかりせねばと思います。またこれも導きの力なのでしょうね。



福島県南地方狛犬ネットワーク会長 相田道代
福島県南地方狛犬ネットワークは福島県の南地方に多数存在している狛犬の保存やPR活動を目的に組織された団体です。福島県南地方の狛犬の素晴らしさを全国に発信し、保存と整備に努めています。